

古文ドリル：「ながら」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「ながら」の正体（3用法）

古文の接続助詞「ながら」は、**並行・状態継続・逆接**の3つの意味を持ちます。現代語の「～しながら」（並行）だけで処理すると、状態継続・逆接を読み落とすので注意します。

用法	意味	訳	例
① 並行	2つの動作が同時	～しながら	歩き ながら
② 状態継続	元のまま続く	～のまま	昔 ながら
③ 逆接	前後が対立	～のに・～けれども	子供 ながら

接続は、**動詞・形容詞・形容動詞・助動詞の連用形**、または**体言・形容動詞の語幹**。活用しません。

識別の鉄則

- 動詞の連用形+**ながら**で、前後が**同時の2動作** → **並行**「～しながら」。
- 体言・語幹+**ながら**で、元の**状態がそのまま** → **状態継続**「～のまま」。
- 前後が**対立・逆転**している（「～のに」でつながる） → **逆接**「～のに・けれども」。
- 訳を3つ当てて、文意が最も自然に通るものを選ぶ。逆接は前後の論理が逆になるのが決め手。
- 固有名詞「長柄（ながら＝地名）」は接続助詞ではない。

🎯 解き方のコツ（試験本番で3秒）

コツ① まず接続を見る

- 動詞の連用形+ながら（歩き・歌ひ） → まず**並行**を疑う。
- 体言・形容動詞語幹+ながら（昔・身・賢し） → **状態継続**か**逆接**。

コツ② 前後の関係で3つを絞る

- 同時の動作なら**並行**（歩きながら歌ふ）。
- 元の状態が続くなら**状態継続**（昔ながらの姿）。
- 前後が対立するなら**逆接**（子供ながら賢し＝子供なのに賢い）。

コツ③ 訳を当てて確認

- ・「～しながら／～のまま／～のに」を順に当て、最も自然なものを選ぶ。

よくある引っかけ

- ・すべて並行「～しながら」で読まない。古文は状態継続・逆接が頻出。
- ・「身分は低くながら徳高し」は逆接（低いのに徳が高い）。並行で読むと破綻。
- ・「我ながら」「生まれながら」は状態継続（そのまま）。

採点表

各セクションごとに自己採点し、最後に合計を記録してください。

- ・ 基礎 (Q1～Q20) : /20
- ・ 標準 (Q21～Q50) : /30
- ・ 応用 (Q51～Q80) : /30
- ・ 入試レベル (Q81～Q100) : /20
- ・ 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

並行・状態継続・逆接の3用法を見分ける。

Q1. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

歩きながら歌ふ。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説**：「歩き」は四段「歩く」連用形。歩く動作と歌う動作が同時。「歩きながら歌う」。並行。

Q2. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

昔ながらの家。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説**：「昔」は体言。元の状態がそのまま続く。「昔のままの家」。状態継続。

Q3. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

子供ながら賢し。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「子供」は体言。前後が対立(子供なのに賢い)。「子供であるのに賢い」。逆接。

Q4. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

泣きながら語る。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「泣き」は四段「泣く」連用形。泣く動作と語る動作が同時。「泣きながら語る」。並行。

Q5. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

生まれながらの性(さが)。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「生まれ」は下二段「生まる」連用形だが、「生まれながら」で「生まれたそのまま」の状態継続。「生まれつきの性質」。状態継続。

Q6. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

知りながら告げず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「知り」は四段「知る」連用形。前後が対立(知っているのに告げない)。「知っているのに告げない」。逆接。

Q7. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

見ながら涙す。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「見」は上一段「見る」連用形。見る動作と涙する動作が同時。「見ながら涙を流す」。並行。

Q8. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

我ながらあさまし。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「我」は体言。「我ながら」で「自分自身でありながら(自分のことながら)」。慣用的に状態継続。「我ながらあきれる」。状態継続。

Q9. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

笑ひながら言ふ。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「笑ひ」は四段「笑ふ」連用形。笑う動作と言う動作が同時。「笑いながら言う」。並行。

Q10. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

女ながら心強し。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「女」は体言。前後が対立(女なのに気が強い)。「女であるのに気丈だ」。逆接。

Q11. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

居ながらにして知る。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「居」は上一段「居る」連用形。「居ながら」で「座ったまま・その場にいたまま」。「家にいたままで知る」。状態継続。

Q12. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

走りながら叫ぶ。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「走り」は四段「走る」連用形。走る動作と叫ぶ動作が同時。「走りながら叫ぶ」。並行。

Q13. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

貧しきながら清し。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「貧しき」は形容詞「貧し」連体形相当。前後が対立(貧しいのに清らか)。「貧しいけれども清らかだ」。逆接。

Q14. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

立ちながら物言ふ。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「立ち」は四段「立つ」連用形。立つ(立っている)動作と物を言う動作が同時。「立ったまま物を言う」。並行(状態継続に近いが、動作の同時性で並行)。

Q15. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

もとの身ながら。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「身」は体言。「もとの身ながら」で「もとの身のまま」。状態継続。

Q16. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

聞きながら書く。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「聞き」は四段「聞く」連用形。聞く動作と書く動作が同時。「聞きながら書く」。並行。

Q17. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

老いながらなほ盛んなり。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「老い」は上二段「老ゆ」連用形。前後が対立(老いているのに盛ん)。「老いているけれどもなお元気だ」。逆接。

Q18. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

つねながらの月。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「つね」は体言。「つねながら」で「いつものまま」。状態継続。

Q19. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

食ひながら話す。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「食ひ」は四段「食ふ」連用形。食う動作と話す動作が同時。「食べながら話す」。並行。

Q20. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

身は賤(いや)しながら心高し。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「賤し」は形容詞連用形相当。前後が対立(身分は低いのに心は高い)。「身分は低いけれども心は気高い」。逆接。

【第2部】標準編 (Q21～Q50)

文脈で並行・状態継続・逆接を絞り込む。

Q21. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

涙を流しながら祈る。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「流し」は四段「流す」連用形。涙を流す動作と祈る動作が同時。「涙を流しながら祈る」。並行。

Q22. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

昔ながらの都。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「昔」は体言。「昔のままの都」。状態継続。

Q23. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

心づきなしと思ひながらもてなす。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「思ひ」は四段連用形。前後が対立(不愉快だと思ふのに)。「気にくわないと思ひながらも(思うのに)対応する」。逆接。

Q24. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

笛吹き**ながら**行く。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「吹き」は四段「吹く」連用形。笛を吹く動作と行く動作が同時。「笛を吹きながら行く」。並行。

Q25. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

我が身一つ**ながら**。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「身一つ」は体言。「我が身一つのまま」。状態継続。

Q26. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

知らぬこと**ながら**答ふ。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「こと」は体言（直前は連体形「ぬ」＋こと）。前後が対立（知らないことなのに答える）。「知らないことであるのに答える」。逆接。

Q27. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

物思ひ**ながら**寝（い）ぬ。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「思ひ」は四段連用形。物思いをする動作と寝る動作が同時（物思いにふけりながら寝る）。並行。

Q28. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

帝**ながら**おごり給はず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「帝」は体言。前後が対立（帝であるのに驕らない）。「帝であるのに驕りなさない」。逆接。

Q29. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

杖をつき**ながら**歩む。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「つき」は四段「つく」連用形。杖をつく動作と歩む動作が同時。「杖をつきながら歩む」。並行。

Q30. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

ありし**ながら**の御調度。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「ありし」は連体形（過去）。「ありしながら」で「以前あったそのまま」。状態継続。

Q31. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

心に思ひ**ながら**え言はず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「思ひ」は四段連用形。前後が対立（思っているのに言えない）。「心に思っているのに言うことができない」。逆接。

Q32. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

うたた寝し**ながら**夢見る。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「し」はサ変「す」連用形（うたた寝す）。うたた寝する動作と夢見る動作が同時。並行。

Q33. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

二つ**ながら**得たり。

答え：状態継続（両方とも）の接続助詞「ながら」 **解説：**「二つ」は数詞（体言）。「二つながら」で「二つとも・両方そのまま」。状態継続（数量に付いて「ともに」の意）。「二つとも手に入れた」。

Q34. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

賢し**ながら**用ゐられず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「賢し」は形容詞連用形相当。前後が対立（賢いのに用いられない）。「賢いけれども登用されない」。逆接。

Q35. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

舞ひながら袖を返す。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「舞ひ」は四段「舞ふ」連用形。舞う動作と袖を返す動作が同時。「舞いながら袖を返す」。並行。

Q36. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

もとの姿ながら。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「姿」は体言。「もとの姿のまま」。状態継続。

Q37. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

罪ありながら許さる。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「あり」はラ変連用形。前後が対立（罪があるのに許される）。「罪があるのに許される」。逆接。

Q38. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

月を見ながら酒飲む。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「見」は上一段連用形。月を見る動作と酒を飲む動作が同時。「月を見ながら酒を飲む」。並行。

Q39. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

男ながらやさし。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「男」は体言。前後が対立（男であるのに優美だ）。「男であるのに優美だ」。逆接。

Q40. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

涙ながらに語る。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「涙」は体言。「涙ながらに」で「涙を流したまま・涙とともに」。状態継続(慣用表現)。「涙ながらに語る」。

Q41. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

ものを言ひ**ながら**笑む。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「言ひ」は四段連用形。物を言う動作と笑む動作が同時。「物を言いながらほほえむ」。並行。

Q42. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

老法師**ながら**力あり。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「老法師」は体言。前後が対立(老法師なのに力がある)。「年老いた法師であるのに力がある」。逆接。

Q43. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

念仏申し**ながら**死ぬ。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「申し」は四段「申す」連用形。念仏を申す動作と死ぬ動作が同時(念仏を唱えながら息絶える)。並行。

Q44. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

もとのまま**ながら**。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「まま」は体言。「もとのままながら」で「もとのまま、その状態で」。状態継続。

Q45. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

知り**ながら**知らぬ顔す。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「知り」は四段連用形。前後が対立(知っているのに知らないふりをする)。「知っているのに知らないふりをする」。逆接。

Q46. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

弓引き**ながら**馬を駆る。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「引き」は四段「引く」連用形。弓を引く動作と馬を駆る動作が同時。並行。

Q47. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

衣着（き）**ながら**寝（い）ぬ。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「着」は上一段「着る」連用形。「着ながら」で「着たまま」。「衣を着たまま寝る」。状態継続（着た状態のまま）。

Q48. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

心は通ひ**ながら**逢はず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「通ひ」は四段「通ふ」連用形。前後が対立（心は通っているのに逢えない）。「心は通い合っているのに逢えない」。逆接。

Q49. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

うつぶし**ながら**泣く。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「うつぶし」は四段「うつぶす」連用形。うつ伏せる動作と泣く動作が同時（うつ伏せたまま泣く）。並行。

Q50. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

我が身**ながら**心にはかなはず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「身」は体言。前後が対立（自分の身であるのに思い通りにならない）。「我が身であるのに心のままにならない」。逆接。

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

紛らわしい状態継続と逆接、固有名詞「長柄」を見分ける。

Q51. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

昔ながらの山ざと。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「昔」は体言。「昔のままの山里」。状態継続。

Q52. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

身づから知りながら改めず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「知り」は四段連用形。前後が対立（自分で知っているのに改めない）。「自分で（欠点を）知っているのに改めない」。逆接。

Q53. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

歌うたひながら漕ぐ。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「うたひ」は四段「うたふ」連用形。歌う動作と漕ぐ動作が同時。「歌を歌いながら漕ぐ」。並行。

Q54. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

長柄（ながら）の橋。

答え：固有名詞「長柄」（接続助詞「ながら」ではない） **解説：**「長柄」は摂津の地名（歌枕）。接続助詞「ながら」とは別物。「長柄の橋」は名所。固有名詞なので識別の対象外。

Q55. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

三つながら失せぬ。

答え：状態継続（三つとも）の接続助詞「ながら」 **解説：**「三つ」は数詞（体言）。「三つながら」で「三つとも」。状態継続（数量に付いて「ことごとく」の意）。「三つとも失われた」。

Q56. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

病ひながらつとめ仕ふ。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「病ひ」は体言(または「病む」連用形)。前後が対立(病気なのに勤める)。「病気でありながら勤めて仕える」。逆接。

Q57. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

ささやき**ながら**過ぐ。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「ささやき」は四段「ささやく」連用形。ささやく動作と過ぎる動作が同時。「ささやきながら通り過ぎる」。並行。

Q58. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

起き**ながら**まどろむ。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「起き」は上二段「起く」連用形。「起きながら」で「起きたまま」。「起きたまもうとうとする」。状態継続。

Q59. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

心に染み**ながら**色には出でず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「染み」は上二段「染む」連用形。前後が対立(心に染みているのに表に出さない)。「心に深く感じているのに顔色には出さない」。逆接。

Q60. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

火を灯し**ながら**読む。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「灯し」は四段「灯す」連用形。火を灯す動作と読む動作が同時。「火を灯しながら読む」。並行。

Q61. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

在り**ながら**亡きがごとし。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「在り」はう変連用形。前後が対立(生きているのに死んだようだ)。「生きているのに死んだも同然だ」。逆接。

Q62. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

細々（ほそぼそ）**ながら**続く。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「細々」は副詞・状態を表す語。「細々ながら」で「細々とした状態のまま」。状態継続。

Q63. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

道行き**ながら**歌よむ。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「行き」は四段「行く」連用形。道を行く動作と歌を詠む動作が同時。「道を歩きながら歌を詠む」。並行。

Q64. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

われ**ながら**つたなし。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「われ」は体言。「われながら」で「自分のことながら」。慣用的に状態継続。「我ながら下手だ」。状態継続。

Q65. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

高き位にあり**ながら**おごらず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「あり」はラ変連用形。前後が対立（高位にあるのに驕らない）。「高い位にありながら驕らない」。逆接。

Q66. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

念じ**ながら**こらふ。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「念じ」はサ変「念ず」連用形。我慢する動作とこらえる動作が同時（折り・我慢しつつこらえる）。並行。

Q67. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

昔のまま**ながら**変はらず。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「まま」は体言。「昔のままながら」で「昔のままの状態で」。状態継続。

Q68. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

賤しき身**ながら**志は高し。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「身」は体言。前後が対立（身分は低いのに志は高い）。「卑しい身であるのに志は高い」。逆接。

Q69. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

手をたたき**ながら**笑ふ。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「たたき」は四段「たたく」連用形。手をたたく動作と笑う動作が同時。「手をたたきながら笑う」。並行。

Q70. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

居（ゐ）**ながら**世を知る。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「居」は上一段「居る」連用形。「居ながら」で「その場にいたまま」。「家にいたままで世の中を知る」。状態継続。

Q71. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

痩せ**ながら**なほ働く。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「痩せ」は下二段「痩す」連用形。前後が対立（痩せ衰えているのに働く）。「痩せ衰えているけれどもなお働く」。逆接。

Q72. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

笛を吹き**ながら**馬に乗る。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「吹き」は四段連用形。笛を吹く動作と馬に乗る動作が同時。並行。

Q73. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

寝（ね）**ながら**聞く。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「寝」は下二段「寝（ぬ）」連用形。「寝ながら」で「横になったまま」。「横になったまま聞く」。状態継続。

Q74. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

才（ざえ）**ありながら**世に知られず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「あり」はラ変連用形。前後が対立（才能があるのに知られない）。「学才があるのに世に知られない」。逆接。

Q75. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

数珠繰り**ながら**経読む。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「繰り」は四段「繰る」連用形。数珠を繰る動作と経を読む動作が同時。並行。

Q76. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

もとの心**ながら**。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「心」は体言。「もとの心のまま」。状態継続。

Q77. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

知らぬ人**ながら**親し。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「人」は体言。前後が対立（知らない人なのに親しい）。「見知らぬ人であるのに親しく感じる」。逆接。

Q78. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

物語し**ながら**夜更かす。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「し」はサ変「す」連用形(物語す)。物語をする動作と夜更かしする動作が同時。並行。

Q79. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

五つながらそろふ。

答え：状態継続(五つとも)の接続助詞「ながら」 **解説：**「五つ」は数詞(体言)。「五つながら」で「五つとも」。状態継続(数量に付いて「全部」の意)。「五つとも揃う」。

Q80. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

いやしき者ながら情けあり。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「者」は体言。前後が対立(身分の低い者なのに情けがある)。「身分の低い者であるのに人情がある」。逆接。

【第4部】入試レベル (Q81～Q100)

文脈を総合して、並行・状態継続・逆接を確実に判別する。

Q81. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

もみぢ葉を見ながら過ぐ。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「見」は上一段連用形。紅葉を見る動作と過ぐる動作が同時。「紅葉を見ながら通り過ぎる」。並行。

Q82. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

昔ながらの御簾(みす)かかれり。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「昔」は体言。「昔のままの御簾」。状態継続。

Q83. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

出家の身**ながら**世を捨てず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「身」は体言。前後が対立（出家の身なのに俗世を捨てない）。「出家の身であるのに世俗を捨てきれない」。逆接。

Q84. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

道すがら涙を流し**ながら**帰る。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「流し」は四段連用形。涙を流す動作と帰る動作が同時。「道々涙を流しながら帰る」。並行。

Q85. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

ありし世**ながら**の心地す。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「世」は体言。「ありし世ながら」で「昔あった時のままの」。状態継続。「昔のままのような気持ちがする」。

Q86. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

恋しと思ひ**ながら**音（おと）もせず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「思ひ」は四段連用形。前後が対立（恋しいと思うのに便りもしない）。「恋しいと思っているのに便りもしない」。逆接。

Q87. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

花を手折り**ながら**歌よむ。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「手折り」は四段「手折る」連用形。花を手折る動作と歌を詠む動作が同時。並行。

Q88. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

もとのすがた**ながら**現はる。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「すがた」は体言。「もとのすがたのまま現れる」。状態継続。

Q89. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

心には忘れず思ひながら音せぬ人。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「思ひ」は四段連用形。前後が対立（思っているのに便りをしない）。「心では忘れず思っているのに便りをしない人」。逆接。

Q90. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

舟こぎながら遠ざかる。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「こぎ」は四段「こぐ」連用形。舟を漕ぐ動作と遠ざかる動作が同時。「舟を漕ぎながら遠ざかる」。並行。

Q91. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

知りながら問ふ。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「知り」は四段連用形。前後が対立（知っているのに尋ねる）。「知っているのに尋ねる」。逆接。

Q92. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

われながら心憂し。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」（～のまま） **解説：**「われ」は体言。「われながら」で「自分のことながら」。慣用的に状態継続。「我ながら情けない」。状態継続。

Q93. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

月見ながら夜を明かす。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「見」は上一段連用形。月を見る動作と夜を明かす動作が同時。「月を見ながら夜を明かす」。並行。

Q94. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

心ぐるしと見**ながら**え助けず。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「見」は上一段連用形。前後が対立(気の毒だと見るのに助けられない)。「気の毒だと見ているのに助けることができない」。逆接。

Q95. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

衣(きぬ)うち着**ながら**臥(ふ)す。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「着」は上一段「着る」連用形。「着ながら」で「着たまま」。「衣を着たまま横になる」。状態継続。

Q96. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

大臣の位にあり**ながら**質素なり。

答え：逆接の接続助詞「ながら」(～のに・けれども) **解説：**「あり」はラ変連用形。前後が対立(大臣の位にあるのに質素だ)。「大臣の位にありながら質素だ」。逆接。

Q97. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

経読み**ながら**涙を落とす。

答え：並行の接続助詞「ながら」(～しながら) **解説：**「読み」は四段連用形。経を読む動作と涙を落とす動作が同時。「経を読みながら涙を落とす」。並行。

Q98. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

もとの所**ながら**荒れにけり。

答え：状態継続の接続助詞「ながら」(～のまま) **解説：**「所」は体言。「もとの所のまま(同じ場所のまま)荒れてしまった」。状態継続。

Q99. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

老い**ながら**世を惜しむ。

答え：逆接の接続助詞「ながら」（～のに・けれども） **解説：**「老い」は上二段「老ゆ」連用形。前後が対立（老いているのに世を惜しむ）。「年老いているのに（なお）世を名残惜しむ」。逆接。

Q100. 次の傍線部「ながら」を識別せよ。

涙にむせびながら書く。

答え：並行の接続助詞「ながら」（～しながら） **解説：**「むせび」は四段「むせぶ」連用形。涙にむせぶ動作と書く動作が同時。「涙にむせびながら書く」。並行。

採点振り返り

おつかれさまでした。間違えた問題は、「ながら」の**前後の関係**をもう一度確認しましょう。

- **並行**「～しながら」…動詞の連用形+ながら、**2つの動作が同時**。「歩きながら歌ふ」。
- **状態継続**「～のまま」…体言・語幹+ながら、**元の状態がそのまま**。「昔ながら」「居ながら」。数量に付くと「～とも（全部）」。
- **逆接**「～のに・けれども」…**前後が対立**。「子供ながら賢し（子供なのに賢い）」。
- すべて並行で読まないこと。古文では逆接・状態継続が頻出。固有名詞「長柄」は別物。

前後の関係を「同時か・そのままか・対立か」で見れば、一瞬で見分けられます。

この問題集は無料です。古文の他の接続助詞（つつ・て・で）のドリルや、文法解説とあわせてご活用ください。

誰でも古典塾 (<https://kotennosenensei.com>) / 個別指導塾フィット・中本裕太